

I. 事業の基礎情報

事業名		異校種間連携事業		担当部・グループ名		教育委員会 教育センターグループ					
総合計画（基本計画）体系	個別目標	(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます									
	こんなことに取り組みます	異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。									
	みんなで目指すまちづくり指標名	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合									
	総合戦略	<input checked="" type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない		予算事業名		-					
	策定時の値	77	実績値	-	実績値	-	実績値	-	目標値	85	(単位)
	2017		2018		2019		2020		2021	%	

II. 目指す姿

このアクションプランによって実現したい目指すべき市の姿	☆高浜市内の幼・保、小、中全ての職員が、「12年間の学びや育ちをつなげる」という意識をもって、個に応じた教育を実践し、子どもが元気に園や学校へ通っている。 ☆子どもたちが「確かな学力」と「発達段階に応じた資質・能力」を身に付けて成長し、小・中学校入学時における不安やとまどいを解消・軽減する意欲や、力を高めている。
-----------------------------	--

III. 課題

目指す姿実現に向けた課題	①中1ギャップの排除だけでなく戸惑いに立ち向かう意欲をもつ環境の醸成。 ②参観する時間や意見交流する時間の確保や異校種参観をチームで行う視点の例示。 ③活動する時間の確保や下級学校の姿勢を受け身から能動的姿勢への移行。
--------------	---

【PLAN】

IV. 目指す姿の実現に向けた4年間の工程表・事業概要

事業年度	2018(平成30年度)	2019(平成31年度)	2020(平成32年度)	2021(平成33年度)	
事業計画	事業の計画確認 ●子ども中心の活動 =異校種間連携事業 ●主に園児と児童、児童と生徒が交流する活動の総称 中1意識調査実施 分析 ●教職員中心の活動 =異校種参観 ●年度始めに、対象者を各園各校でコーディネートする ●異校種参観シートはその都度送付し成果や課題を確認する すべての教職員が年に1回以上授業公開実施 高浜版指導法集約 成果・課題振り返り	事業の計画確認 ●子ども中心の活動 =異校種間連携事業 ●主に園児と児童、児童と生徒が交流する活動の総称 中1意識調査実施 分析 ●教職員中心の活動 =異校種参観 ●年度始めに、対象者を各園各校でコーディネートする ●異校種参観シートはその都度送付し成果や課題を確認する すべての教職員が年に1回以上授業公開実施 高浜版指導法集約 成果・課題振り返り	事業の計画確認 ●子ども中心の活動 =異校種間連携事業 ●主に園児と児童、児童と生徒が交流する活動の総称 中1意識調査実施 分析 ●教職員中心の活動 =異校種参観 ●年度始めに、対象者を各園各校でコーディネートする ●異校種参観シートはその都度送付し成果や課題を確認する すべての教職員が年に1回以上授業公開実施 高浜版指導法集約 成果・課題振り返り	事業の計画確認 ●子ども中心の活動 =異校種間連携事業 ●主に園児と児童、児童と生徒が交流する活動の総称 中1意識調査実施 分析 ●教職員中心の活動 =異校種参観 ●年度始めに、対象者を各園各校でコーディネートする ●異校種参観シートはその都度送付し成果や課題を確認する すべての教職員が年に1回以上授業公開実施 高浜版指導法集約 成果・課題振り返り	
	事業費総額(千円)	(当初) 0	(見込) 0	(見込) 0	(見込) 0
財源内訳	一般財源	0	0	0	0
	特定財源	0	0	0	0
特記事項					

【DO】

Ⅲと対応する課題	V. 上半期の進捗状況 目標達成のために掲げた「課題解決に向けた取り組み」とその進捗状況
①	◆小中連携に関する児童生徒実態の調査と分析
状況	中1アンケートを実施し、各校に分析を依頼。
②	◆異校種参観の充実・異校種間情報交換会(教職員の活動)
状況	異校種参観が行われ、参観者が異校種参観シートを記入し、参観校に送付。各校・各園の指導につなげている。
③	◆異校種間連携事業(子ども中心の活動の整理と充実)
状況	幼稚園が小学校、小学校が中学校といった進学への見通しをもつ機会となっている。



【CHECK】

Ⅲと対応する課題	VI. 上半期の取り組みから見えてきた課題 目指す姿実現に向け、これまでの取り組みから見えてきた課題
①	中1ギャップの排除だけでなく戸惑いに立ち向かう意欲をもつ環境の醸成。
②	参観する時間や意見交流する時間の確保。
③	活動する時間の確保や下級学校の姿勢を受け身から能動的姿勢への移行。



【ACTION】

Ⅲと対応する課題	VII. 課題解決を踏まえた今後の具体的なアクション(案) いつ・何を・どのように・どうする	
①	平成30年度下半期	分析、アンケートの見直し等、次年度以降の具体的方策を考える。
	平成31年度～平成33年度	児童生徒が戸惑いに立ち向かう意欲をもてるための取組(入学説明会・授業・教育相談の場)を工夫し、実践する。
②	平成30年度下半期	参観シートを活用することで、互いの教育観・指導法を理解し、年度末には、成果や課題を振り返る。
	平成31年度	参観の方法について見直したり、高浜版指導法を集約・周知したりする。
③	平成30年度下半期	年度末に成果や課題を振り返り、次年度の活動内容計画に生かす。
	平成31年度～平成33年度	異校種間連携事業を見直し、子どもがより主体的に活動する事業を考え、実践する。
平成31年度事業費予算	0千円	